特選 題詠「行」一席（選者五十音順）

● **大辻　隆弘　選**
投票に行った母校の体育館に土足で上った感触を言う　神奈川　岩﨑　幸子

● **大森　静佳　選**
我が町を初めてバスから眺めつつ車の免許返納に行く　長崎　小泉　浪士

● **小池　光　選**
日の丸を巻かれし梵鐘赤牛に引かれて村を出て行きしとぞ　東京　草場　弘子

● **小島ゆかり　選・俵　万智　選**
行間を空けてふうっと息を吐くたぶん相手は息呑むところ　宮城　渋谷　裕子

● **三枝　昂之　選**
ピッチャーとキャッチャーの間の空間を切り裂いて行く夏の一球　兵庫　大沼　遊山

● **斉藤　斎藤　選**
「ワイシャツの白が似合ってましたよ」と一行添えん職退く夫に　福井　野原つむぎ

● **高野　公彦　選**
ソファーよりガ行上二段活用の鼾聞こゆる巣ごもりの夏　神奈川　今津　美春

● **永田　和宏　選**
仙台を発つ〈やまびこ〉に飛び乗った今から君を抱きしめに行く　東京　木村　武

● **東　直子　選**
寡夫の子がご飯を食べにそっと来てそっと溶け行く街灯の外　福岡　市川登美榮

● **穂村　弘　選**
潮を読み海を守りし海賊の子孫なれども投票に行く　愛媛　檜垣　実生

● **米川千嘉子　選**
信子、草摘みに行かない？と母の声　霏々と雪降る如月の夜に　埼玉　荻原　信子

特選 自由題一席（選者五十音順）

● **大辻　隆弘　選**
海近き私の街に橋のあり大きな水を見るのは好きだ　兵庫　東大路エリカ

● **大森　静佳　選**
目や皮膚やこころの違う僕たちが同じ暗さの影曳く夕べ　東京　仲原　佳

● **小池　光　選・小島ゆかり　選**
気の遠くなるほど空の青い日よ　生まれてはじめて曾祖母になる　山口　木村　桂子

● **三枝　昂之　選**
九十一歳（きゅうじゅういち）の母が始めた百円ショップ掘建て小屋に野菜並べて　愛知　近藤えり子

● **斉藤　斎藤　選**
「色鉛筆塗るのしんどい」デイケアで老母は黒の蜜柑を描く　京都　藤野　晴子

● **高野　公彦　選**
玄関に冬の野菜があまたあり笠地蔵さんはきっと義姉さん　福岡　小宮　悦子

● **俵　万智　選**
雪の日に烏賊釣り船の明るさでキッチンカーのならぶビル街　東京　嶋田　恵一

● **永田　和宏　選**
食べないでほほえむ父に味噌汁を温め直しわたしは泣いた　愛媛　丸山かなえ

● **東　直子　選**
好きな人、永遠に生きる気がしてる永遠すぎてきっと泣いてる　千葉　にいおえ

● **穂村　弘　選**
また言った　あなたは時々「風」と言う　風があなたに何をするのか　愛媛　大賀　康男

● **米川千嘉子　選**
梅雨晴れにドナルドダック干されおり若き介護士たちの母国語　高知　小川　良江

◆特選 自由題二席（選者五十音順）

大辻　隆弘　選

黒々とアスファルト濡れ秋雨に鳩の素足の滲む紅色

大阪　高橋　邦子

大森　静佳　選

何気なく臭いをかいだ手の甲は八十年のけむりの匂い

兵庫　山次　隆晴

小池　光　選

娶らざる息子にかつてふさはしと思ひし教へ子忘れがたしも

静岡　鷲巣　錦司

小島ゆかり　選

オーダーはアイスコーヒーだったのにアイスティー飲む我が嫌いだ

東京　近藤　精一

三枝　昂之　選

母になり今頃たぶん祖母になるあの日あなたが生まれていたら

東京　志村　清美

斉藤　斎藤　選

新しき家族のように冷蔵庫庭をまわりて縁より入り来

埼玉　野田　雅子

高野　公彦　選

雪の日に烏賊釣り船の明るさでキッチンカーのならぶビル街

東京　嶋田　恵一

俵　万智　選

おそらくは次も喪服で会うだろう親戚たちと近況話す

兵庫　蛇持なみじ

永田　和宏　選

ウエディングドレスの裾を踏んでいた父はわが手を離したけれど

長野　原田りえ子

東　直子　選

家を出た朝もしずかに燃えていた薪ストーブの灰を掻きおり

東京　音羽　凜

穂村　弘　選

回診のたびに折鶴おいてゆく外科医は指の訓練と言う

鳥取　深田　和子

米川千嘉子　選

マンホールの蓋の模様の三番叟雪解け水に烏帽子が光る

東京　日比　光哉